

(資料-1)

オキナワモズク（造胞体）の長期保存試験

当真 武

オキナワモズクが養殖漁業として発展し大量生産できるようにしたいが、品質管理が重要な課題として位置づけられている。本試験は1978年度に養殖用種苗保存技術開発のため色々な方法を模索していた際の結果であるが、品質管理技術開発の基礎的な部分を含んでいると思われるので記述しておく。

試験に協力していただいた沖縄市役所の普久原朝健、仲村好文の両氏と沖縄市漁協に感謝する。18ℓ（23×23×40cm）容器の形は（図-1）にしめた。

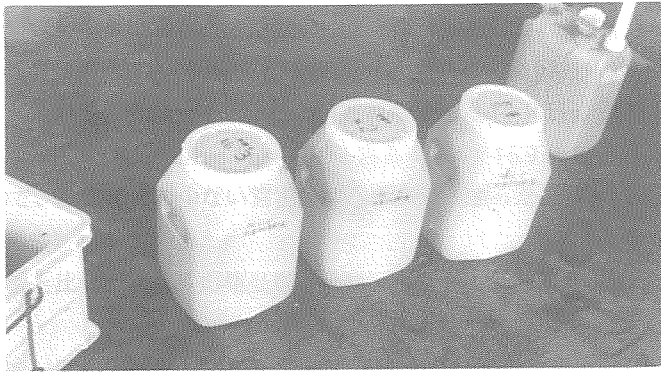


図-1 オキナワモズク造胞体の長規保存試験に使用したポリエチレン製18ℓ容器

		試験期間 1978年6月8日～12月10日			
温度区分(℃)	0～5	5	5～10	25	
容器	18ℓ（23×23×40cm） 白色のポリエチレン製		（シャレー）	（標本瓶）	（1斗缶） ビニール袋に収容
重さ	3, 5, 10kg	10, 20kg	500g		
経過と結果	3者とも表面2～3cmが凍る 藻の保存状態は5kg区が最よく、次いで10, 3kg区分が良い。5, 10kg区は6ヶ月後でも採苗可能。しかし、発生数は少ない。色が薄く健全な盤状体にならない。	ややシャーベット状になる。 保存6ヶ月後でも採苗可能。 発生は約12細胞期まで急速に分裂するが、24時間以内に脱落する。放出数は極めて少ない。	藻の形は良好に残る。 3ヶ月後の採苗は不可。	2～3日後にはすべて腐敗臭生じたので廃棄。	
容器の保管場所	沖縄市漁協 冷凍庫	水試 インキュベーター	家庭用 冷蔵庫	水試 恒温槽	

オキナワモズクの形態は5～10℃あれば約3ヶ月間保持できることを示した。保存6ヶ月後も採苗可能であることを示したが、いわゆる健苗ではなかった。発生は中性複子嚢、単子嚢のいずれに由来するかは確認していない。